

RH-03 「バリアフリーマップにかかるデータベースの作成と使いやすいデザインに関する研究」

課題提案者：盛岡市保健福祉部障がい福祉課

研究代表者：社会福祉学部 狩野徹

研究チーム員：阿部昭博（ソフトウェア情報学部）、吉田仁美（社会福祉学部）、菅原由紀（盛岡市障がい福祉課）

<要 旨>

盛岡市内のバリアフリーの達成状況を把握するバリアフリーマップを作成するために、盛岡市内のよく使われると思われる地域を抽出し、観光客など特に外部から訪れた利用者の立場に立ったバリアフリーマップを試作することを目的とする。また、印刷物およびHP等にてバリアフリーマップを提供することで、今後の施設側の改善等へ結びつけることにつながることを目指す。盛岡駅前に対象を絞って、フィールドワークショップを重ね、施設の状況を把握し、必要な情報をバリアフリーマップとして表現を試みた。その成果として、「盛岡駅前バリアフリーマップ」を作成した。

1 研究の概要（背景・目的等）

障がい者、高齢者、乳幼児をつれたファミリーなどの社会参加を促進するため、誰もが利用しやすい施設等について情報提供が必要である。バリアフリーマップはこれまでも作成されてきているが、情報が利用者から見ると使いやすいとはいえず、網羅的であり、車いす使用者のニーズ、視覚障害者のニーズなど利用者の立場に立った整理がされていない。このようにユーザーの立場に立ったバリアフリーマップはまだ不十分であるといえる。このように設置する側の認識と実際に利用する者の要求が必ずしも一致していない現状で、「有無」だけでバリアフリーマップが作られている。そこで、本研究の目的を利用者の立場に立ったバリアフリーマップの作成とした。たとえ、県の条例や国の基準に適合していても、これらは誘導基準のものもあるが、一般的に最低基準で作られている場合が多い。さらに最近レベルの高い整備された施設も多く出てきている。このように、「普通に使える」レベルを超えて「快適に利用できる」情報を提供できるバリアフリーマップを作成する。つまり、使える範囲を評価し、写真やコメントとともに情報提供をするバリアフリーマップを作成することを目指す。

2 研究の内容（方法・経過等）

(1)バリアフリー情報の収集

盛岡市および盛岡市身体障害者協議会を中心に、障がい者および有志をメンバーとした推進の組織を設置し、具体的なバリアフリーマップの作成に向けて、盛岡駅前を調査対象地区として調査点検シートを作成し、バリアフリーマップに載せる情報を検討した。

(2)バリアフリー情報の評価、検討およびマップ化

得られたバリアフリー情報について、多様な利用者から評価を試みた。評価方法は大学が中心になって、利便性、快適性、安全性などから評価した。これらを、行政、大学、当事者、一般市民それぞれの立場から事例を検討し、バリアフリーマップに掲載する内容を検討した。そして、検討した情報を、実際にバリアフリーマップ化した。

3 これまで得られた研究の成果

(1)バリアフリー情報の収集

盛岡駅前のバリアフリーの状況を車いす使用者と一緒にすべての道及び建物の入り口を調査した。



写真1 移動ルート調査中の様子



写真2 歩道のディテールのチェックの様子

(2)バリアフリー情報の評価、検討およびマップ化

実際に得られた情報を評価し、マップ化しその表現、デザインの検討をおこなった。

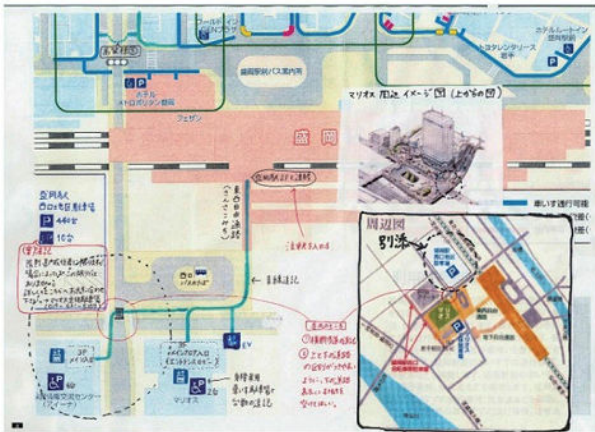


図1 得られた情報のマップ上での評価・検討の例

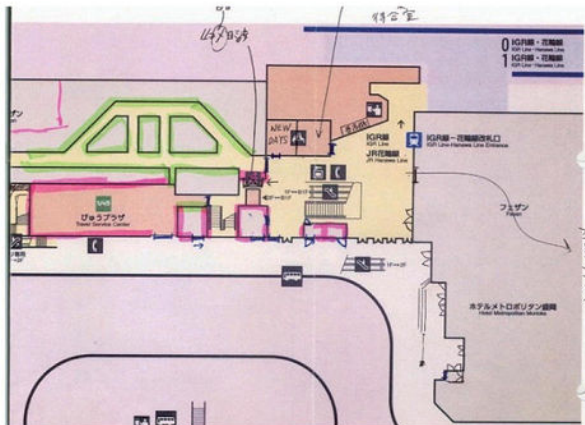


図2 店舗入口の検討の例

4 今後の具体的な展開

盛岡駅前についでバリアフリーマップを作成したが、今後は同じ手法で、対象地域を拡大し、盛岡市内の主な地区のバリアフリーマップを作成していきたいと考えている。また、2016年度に開催される障がい者スポーツ大会の時に利用されることを前提に、飲食店、宿泊施設など県外から来る障がい者が盛岡市内をはじめ県内を楽しめるよう、内容を検討して行きたい。

また、紙媒体で作成したが、電子媒体によるバリアフリーマップの作成、車いす以外の利用者を考えたバリアフリーマップの検討をして行きたい。

5 その他（参考文献・謝辞等）

このバリアフリーマップは、バリアフリーマップ作成実行委員会を立ち上げ、得られた情報の検討を委員会を重ね、委員会の活動として制作されたものである。本研究は実際の調査の企画、実施に関わり、バリアフリーマップの印刷・発行は「障がい者人材センターらいふ」がおこなったものである。



図3 完成したバリアフリーマップの一部